

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

「木材」を使って森も人も元気に！

○ わが国の木材は使いどき

わが国は、国土の約3分の2が森林で覆われた世界有数の森林国です。森林は水源のかん養、二酸化炭素の吸収、生物多様性の保全、土壌の流出の抑制など様々な働きがあり、木材やきのこなどの林産物を産出するのも森林の重要な役割のひとつです。

わが国の森林は、終戦直後から高度成長期にわたり植えられた人工林を中心に、その蓄積は平成24（2012）年3月末で約49億 m^3 に達し、近年は毎年1億 m^3 ずつ増加しています。こうした人工林の面積の半分は木材生産に適した50年生以上になっており、資源として本格的な利用期を迎えています。その一方、わが国の木材の年間需要量約8千万 m^3 のうち国産材の割合は約35%にとどまり、依然として外国産材が木材供給の多くを占めています。このように国内の森林資源は順調に増加しているにもかかわらず、十分に使われていないのが現状です。

○ 木材は再生可能な資源

森林から伐りだした丸太は、住宅の柱などの建築部材や家具など木製品の材料として利用されるほか、製材くずや欠点のある木材などは紙の原料や燃料に利用できます。このように木材は無駄なく利用することができるうえ、伐り出した跡地に植林をすればまた丸太を生産することができる資源です。つまり木材は「使う→植える→育てる→使う」というサイクルによって、いつまでも使い続けることができる再生可能な資源です。また、このサイクルを続けることによって、森林の持つ様々な恵みを、私たちが世代を超えて持続的に受けることにつながります。



森林資源の循環利用（イメージ）

出典：森林・林業白書

○ 「木」のある暮らしを楽しむ

多くの人たちが、木材が持つ断熱性や調湿作用など様々な特性を活かして、健康で快適に暮らすことができる家づくりを望んでいるという調査結果があります。木製家具は手ざわりや風合いがよく、使い込むほど愛着が増していく魅力があります。また木材を住宅や家具に利用して使い続ければ、森林が固定した二酸化炭素を大気中に放出させることなく蓄えることになり、地球温暖化防止にも役立ちます。

みなさんも、暮らしの様々なシーンに木材を利用し、家族の健康や持続可能な社会づくりに思いを馳せつつ、「木のある暮らし」を楽しみませんか。

暮らしの様々なシーンでの木材利用



大工と組む わが家再生
(株式会社新和建設、ウッドデザイン賞 2016)



日本の木と技が創る超軽量家具
(株式会社 KOMA、ウッドデザイン賞 2016)

※ ウッドデザイン賞 2017 は、平成 29 年 12 月 7 日に表彰式及び展示が行われる予定です。

水都おおさか森林の市2017 「森林（もり）と木材！フォトコンテスト」入賞作品表彰式・発表会

【箕面森林ふれあい推進センター】 水都おおさか森林の市2017「森林（もり）と木材！フォトコンテスト」の作品募集を行い、2府7県から32作品の応募がありました。

審査の結果、近畿中国森林管理局賞3作品、水都おおさか森林の市賞1作品、優秀賞3作品、審査員特別賞1作品の計8作品を決定しました。

10月22日の水都おおさか森林の市2017会場で、表彰式と作品発表会を予定していましたが、台風の影響により中止となってしまいました。入賞作品では、闇夜に光るツキヨダケ、木に寝そべるニホンリス、木工作品作りに一生懸命な女の子、イベントで森林官制服で記念撮影、木登りチャレンジなど、森や木材をテーマに素敵な組写真とメッセージの作品が集まりました。※賞状等は後日受賞者へ郵送いたしました。

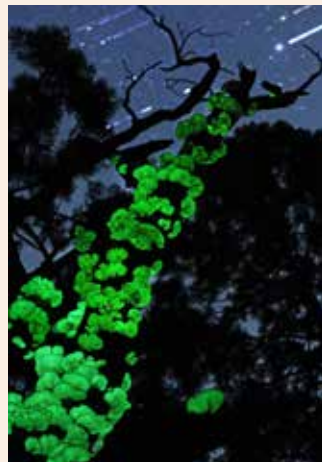
○近畿中国森林管理局賞○ 【森林で見つけた動植物】

『森林に生きる』 谷水 毅（広島県竹原市）

【受賞者コメント】

ブナ林は日本を代表する森林である。長年の成長を終えて土に戻ろうとしているブナの老木に群生する「ツキヨダケ」。昼間、ツキヨダケを見ると美味しそうなキノコだが、実は毒キノコで食べる事が出来ない。ツキヨダケは晩夏から秋にかけてブナの木に群がり夜になるとぼんやりと怪しくも緑色の光を発する。これが毒キノコかと思うくらい異常すぎる程の美しさであり闇夜の森林に光るツキヨダケは実に神秘的である。

月の無い星空の下でツキノワグマとの出会いを心配しながらのツキヨダケの写真撮影だが、自分が別世界の中に居る気分は最高である。



【撮影日：H28.9.29 場所：広島県山県郡北広島町 臥竜山 撮影した動植物名：ツキヨダケ 撮影機種：Canon EOS 5D III】

○近畿中国森林管理局賞○ 【森林での体験・活動】

『シイタケの育つ森づくり』 飛鳥里山クラブ里山づくり隊 和本 仁司（奈良県桜井市）

【受賞者コメント】

飛鳥里山クラブは国営飛鳥歴史公園のボランティアで、公園の甘樫丘地区等を主な活動拠点とし、里山景観保全や花による見どころづくり等を行っています。

椎茸栽培に必要な楡木（ほだ木）は、クヌギの苗木を調達し植樹してきましたが、平成26年からはどんぐりから育てる資源循環体系を目指しています。

どんぐりから育てた楡木に椎茸が育つまではあと数年かかりますが、甘樫丘を訪れる皆さんに里山の魅力を知っていただこうと中高年者達で頑張っています。



全て左から【撮影日：H28.3.15、H29.1.23、H27.4.2 場所：国営飛鳥歴史公園甘樫丘 撮影した動植物名：どんぐりから3年目のクヌギの鉢替え、7年目のクヌギを伐採、3年目に育ったシイタケ 撮影機種：CASIO EXILIM】

○近畿中国森林管理局長賞○ 【木材と人との触れあい】

『ケヤキと私だけの世界』 一般社団法人 Mint Green 末武 和之 (奈良県奈良市)

【受賞者コメント】

昨年6月に開催された自然体験キャンプで、木製スプーン作りに挑戦した小学4年生(当時)の綾花ちゃん。参加した子どもたちのなかでいちばん大きなスプーンを作るために、ノコギリ・小刀・彫刻刀を駆使して、材料となるケヤキの木片と真剣勝負です。

ところが、ケヤキはとても堅く、思うように削れません。それでもあきらめず、翌日も野外炊飯や川遊びのプログラムの空き時間を利用して、少しずつ彫り進めてゆく綾花ちゃん。いつしか、ケヤキと自分だけの世界に没入していきます。



全て左から【撮影日：H28.5.21、H28.5.21、H28.5.22 場所：山城町森林公園(京都府木津川市) 撮影した動植物名：ケヤキ(材料として使用) 撮影機種：PENTAX K-50】

○水都おおさか森林の市賞○ 【木材と人との触れあい】 『大阪のまちなかで山遊び!』 柿本 大治 (大阪市都島区)



【撮影日：H29.7.2 場所：近畿中国森林管理局 撮影機種：Canon EOS 80D】

○優秀賞○ 【森林で見つけた動植物】 『森林の寝台(もりのベット)』 土屋 達也 (大阪市住吉区)



全て左から【撮影日：H28.3.12、H29.6.17 場所：箕面・鉢伏山 撮影した動植物名：ニホンリス 撮影機種：Canon EOS-IDX】

○優秀賞○ 【森林での体験・活動】 『柳生への道は森の中』 吉田 宏（神奈川県横浜市）



【撮影日：H28.12.2 場所：奈良県・春日山・高円山 撮影機種：NIKON D5】

○優秀賞○ 【森林での体験・活動】 『木登り大成功！！』 ボーイスカウト富田林第1団カブスカウト隊
北 幹雄（大阪府富田林市）



【撮影日：H28.9.25 場所：大阪府営 錦織公園 撮影機種：Canon EOS Kiss】

○審査員特別賞○ 【森林で見つけた動植物】 『森の精』 上萩 寛（滋賀県大津市）



全て左から【撮影日：H24.11.9、H27.5.5、H27.5.5 場所：京都市北山 撮影した動植物名：スギ 撮影機種：Canon Power Shot S110、Canon EOS Kiss X3】

沢山のご応募を頂き、ありがとうございました！

ニュース

技術の森で学ぶインターンシップ
—パプアニューギニア京都大学留学生—

【森林技術・支援センター】 京都大学に留学中のパプアニューギニアの政府職員 Javen Evera さんが、日本国の支援による「太平洋島嶼国リーダー教育支援プログラム」の一環として、森林技術・支援センターの試験地等において、人工林の管理や木材の搬出技術、育林技術等を2週間にわたって学びました。

森林管理局での開講式を終えた後、初日は、日本の国有林の成り立ちを紹介するため、日本三大山城の一つ「備中松山城」とそれを取り囲む形で所在する臥牛山国有林を案内し研修が始まりました。



当センターでは、国有林の森林管理や技術開発の取り組みを説明するため、列状間伐試験地や天然性広葉樹を活用した環境に配慮した森林づくり、コウヨウザン等の早生樹

試験地等を視察することにしました。

また、岡山署の協力を得て、人工林の皆伐・利用間伐箇所では、高性能林業機械による木材の伐採・搬出現場を視察し、日本の人工林管理・伐採・搬出の技術レベルの高さに感銘していました。



また、森林総合研究所林木育種センター関西育種場での林木育種技術、苗木生産を行っている樹苗組合を視察するとともに、木材の活用については、木材市場やCLT等に加工する製材工場、バイオマス発電施設を視察し、日本のシステム化された木材流通等について、自国での木材等の取り扱いの今後の参考にしていきたいとの感想が聞かれました。

最終日は、森林管理局で報告会を開催しました。2週間の研修を通して学んだ自国と日本の違いを説明し、自国へ帰国した後は、日本の森林管理、木材流通システムなどを取り入れていきたいと決意を述べられました。

北潟国有林での自然観察会と
フォトプレート作り

【福井森林管理署】 10月13日(金)に北潟国有林で社会福祉法人ポプラ福祉会伊井こども園の園児27名が



自然観察会とフォトプレート作りを行いました。

自然観察会では、北潟の森協議会の会員と福井森林管理署の職員が植物などの解説

をしながら北潟国有林内を1時間半ほど散策しました。

園児たちは道に落ちていた松ぼっくりやどんぐり、林床に生えているきのこに特に興味を持っていました。今まで見たことのない形の木の実は



きのこを見つけた園児から「この名前は?」「食べられる?」等の質問を受けると講師役は丁寧に答えていま

ました。さらに、北潟の森協議会会員から食べられる木の実の提供もあり、とても盛り上がりました。園児たちは五感を使って北潟国有林の森を楽しんでいる

ようでした。また、動物の足跡の発見や昆虫の出没もあり、とても刺激的な体験が出来ました。

フォトプレート作りでは、フォトフレームにどんぐりや枝、つる等で飾りつけをしました。園児たちは先生や保護者、北潟の森協議会会員の手を借りながら思い思いに自分の作品を完成させました。



「大山の自然と治山」フォトコンテスト作品展と表彰式を開催

【計画保全部 治山課】 大山治山事業100周年記念行事として行った本フォトコンテスト（「森のひろば」No.1098）には、54点もの作品が集まりました。多くのご応募をいただきありがとうございました。

入賞作品は、福島多暉夫日本写真作家協会理事、鷺見寛幸大山町教育委員会教育長及び主催者による審査会にて、最優秀賞1点、優秀賞4点を選定しました。

これらの入賞作品や応募作品は、10月28日（土）～29日（日）の2日間、鳥取県大山町において展示を行いました。

撮影者の大山への愛着が感じられる作品が多く、来場者の方々は、一点ずつじっくりとご覧になられていました。

また、29日には、展示会場内で入賞作品の表彰式を開催し、5名の受賞者に、主催者である高野浩文近畿中国森林管理局长より木製の賞状と副賞の木工品をお渡ししました。

審査員の鷺見氏から「コンテストのテーマ『大山の自然と治山』をよく表現した作品が受賞となった」といった審査会の総評や、最優秀賞の吉田源市氏から「このコンテストで大山の『治山施設』が大山の景観を守っていることを知った」といった受賞の言葉をいただき、作品を通じて大山の自然の素晴らしさや治山の役割を考える有意義な時間になりました。



「大山の自然と治山」フォトコンテスト入賞作品

【最優秀賞】

【優秀賞】



「紅葉日和」
吉田源市さん（鳥取県米子市）



「春近し大山南壁、三の沢」
及川健作さん（兵庫県高砂市）



「残雪の元谷」
佐伯範夫さん（島根県安来市）



「晩秋の彩り」
中嶋幸枝さん
（鳥取県西伯郡大山町）



「元谷と三鈷峰」
山口要さん（鳥取県鳥取市）

大山治山事業 100周年記念行事 ～クイズウォーク&現地見学会～

【鳥取森林管理署】 大山では、大正6年（1917）に治山事業が開始されて100年が経過したことから今年度8月から「大山治山事業100周年記念行事」を開催してまいりました。その行事の1つとして、10月3日（火）、地元の大山小学校4年生児童や地元自治会など地域の方を対象に、現地イベントとして「クイズウォーク&現地見学会」を開催しました。

当日は、大雨のため現地での行事ができなくなったことから、大山総合体育館に会場を移し、「治山事業の学習」、「大山治山事業100周年クイズ」、「北壁の大崩壊地の様子を紹介（ドローン撮影動画）」、「ドローンのデモ飛行」、「施工中の治山工事の説明」、「鳥取県の治山砂防課による防災学習（動画や模型を利用）」、「タイムカプセル」など、室内行事に内容を変更して実施しました。

また、崩壊地の様子の紹介や防災学習では、小学生だけでなく、地元自治会や地域の皆さんも迫力のある映像に驚きと感嘆の声をもらしながら、熱心に説明を聞いていました。



最後に、児童代表の二人から署長にメッセージの発表があり、写真や10年後の自分へ宛てた手紙（治山事業・大山への想い等）をタイムカプセルに詰め込みました。（本来なら子供たちの手でカプセルを元谷の工事現場近くへ埋設する予定でしたが、雨のため、後日、職員の手で工事現場の近くへ埋設しました。）



子供達からは「災害のおそろしさがよく分かった。」、「治山事業のことがよく分かり、楽しかった。」など、また、地域の方々からは、「治山事業により、日頃の生活が守られていることや治山事業の大切さがよく分かった。」などの感想が聞かれました。

100年間にわたり続けられてきた治山事業に携わった諸先輩方のご努力やそれによって地域の安心・安全が守られていることを、未来を担う子供達や地域の皆様に理解してもらいたい機会になりました。



クイズについては、大山小学校の児童は答えの発表で一喜一憂していましたが、日頃から大山レンジャー（大山にまつわる様々なことを一人一人が一つテーマを決め、調べたことを観光で訪れた人達に伝える。）として活動をしていることもあり、成績は優秀でした。そして、木製のネームプレートやバードコールなどの賞品を手にとっていました。



体験林業を実施しました

【滋賀森林管理署】 9月30日（土）、大津市上田上の六個山国有林で連合滋賀青年委員会主催の体験林業を実施しました。

連合滋賀青年委員会は、社会貢献活動の一環として滋賀県下で森林保全ボランティアに取り組んでいます。今回は、さわやかな秋晴れの下で22年生のヒノキ林の保育作業を行っていただきました。

最初に大津首席森林官から除伐の効果について解説した後、作業の手順や除伐鎌、手鋸の使い方を実演を交えて説明し、鎌で刈り払う際の注意点や安全な体勢で作業することの大切さを全員で共有し作業に臨みました。

午前中は、林内に入ってヒノキを被圧している広葉樹を伐採しました。除伐鎌や手鋸で4～5本に細かく株立ちした広葉樹を伐採・整理すると、最近涼しくなってきた秋とはいっても汗が噴き出しました。



午後からは、成長の悪い劣勢木の除伐を行いました。手鋸を使って受口、追口を作り伐採していくのですが、ヒノキは枝が絡むので

なかなか素直に倒れてくれません。伐採木の周囲を見渡し、空いている方向を確認、伐倒方向を工夫しながら作業を進めました。

参加者の方からは「林内が明るくなってやりがいを感じる」という声のほか、「伐ってしまうのはもったいない気がしていたが、森林が成長するための大切な作業だということが分かった」等の声をいただき、私たちにとっても一般の方に森林の保育作業の意義を伝えることの大切さを改めて感じた1日でした。

当署での開催も6回目となり、これまで保育作業を実施していただいた面積は小班の半分を超えました。



作業後のヒノキ林はとてもきれいになり、生き生きと成長しています。今後も末永くおつきあいをお願いいたします！

中学生による松葉かき 高校生による外来種メリケンカルカヤの除去

【福井森林管理署】 10月4日（水）、「気比の松原100年構想」に取り組んでいる松原国有林（国の名勝「気比の松原」）において、松陵中学校の1年生約100人が、松葉かきを行いました。



松陵中学校の生徒たちは、熊手を使い松葉を集め、松葉のトゲに注意しながらゴミ袋約200袋分を袋詰しました。

松葉かきは、「気比の松原」をマツの生育に適した栄養の少ない環境にすることを目的としています。



また、翌日の5日（木）には、敦賀高校1、2年生約550人が、生態系被害防止外来種メリケンカルカヤの

駆除を行いました。



メリケンカルカヤは外国から持ち込まれたイネ科の多年草で、「気比の松原」の内部でその分布範囲を拡大しています。本活動は、敦賀高校生物部がメリケンカルカヤの分布状況調査を行ったことを発端とし、気比の松原100年構想推進連絡協議会の協力のもと昨年に引き続き2回目の実施となりました。

秋の涼しい空気の中、敦賀高校の生徒たちは、約1mに成長したメリケンカルカヤの強力な根張りりと苦闘しながら、ごみ袋約600袋分を駆除しました。

今回参加した地元の中・高校生たちの中には、小学校時代に松葉かき等の「気比の松原」の保全活動の経験がある生徒たちも多く、その慣れた手つきには頼もしさを感じました。こうした松葉かきや生態系被害防止外来種の駆除等を続けることで、敦賀の宝である身近な景勝地を守り育てていく気持ちが育っていくことを期待しています。

お知らせ

～クリスマスリースを
手づくりしませんか～

○『見て・さわって・樹木と友だちになるう「冬」』○

* 開催日時

12月17日(日) (雨天決行)
 午前の部 10:00～12:00
 午後の部 13:30～15:30

* 参加費

一人500円(材料費・保険料)

* 定員・締切

40名(午前・午後各20名)
 定員になり次第または、12月11日(月)

* 会場

近畿中国森林管理局1階ギャラリー

* 対象

どなたでもご参加いただけます。(大人のみのお申込み)

* プログラム

- ・公園お散歩＋ネイチャーゲーム(雨天時は屋内にて)
- ・国有林のおはなし
- ・自然素材クラフト ～クリスマスリース～
- ・丸太きり体験＋円板パズルづくり

* その他

小学2年生以下のお子様は、保護者同伴でお願い
 します。
 付き添いの大人の方についても、参加費がかかります
 のでご了承ください。
 会場に駐車場は、ございません。公共交通機関をご
 利用ください。
 ご応募いただいた個人情報につきましては、このイ
 ベントのみに使用させていただきます。

* お問い合わせ・お申込み

近畿中国森林管理局 技術普及課
 TEL: 050-3160-6753
 FAX: 06-6881-2055

平成29年度第3回近畿中国 森林管理局国有林材供給調整検討 委員会が開催されます。

平成29年11月30日(木) 13時～15時
 開催後にホームページで概要を公表いたします。

森林のギャラリー(局庁舎1階)

11/20～11/24 第11回彩21 絵画展【彩21】

11/27～12/1 染とアート・川柳への誘い

【ギャラリー「てまひま」】

12/4～1/5 早生樹研究の取組

【(公社)日本木材加工技術協会関西支部 早生樹林材研究会】

12/4～1/5 箕面明治の森国定公園指定50周年

【NPO法人みのお山麓保全委員会】

12/4～1/5 杉の家(すまい)

【株式会社モリアン】

花草木

今月の花草木は「クロガネモチ」です。

クロガネモチは日本(関東以西)、中国、台湾原産の常緑で高さが10～20mの常緑広葉樹です。真っ赤な実と紫黒味を帯びた枝葉を觀賞します。クロガネモチはその名前が「苦勞せずにお金持ちになれる」「苦勞の後に金持ちになる」という語呂合わせから縁起の良い木としても知られています。

花は初夏に、淡紫白色の小花を枝先の葉のわきから枝別れして咲きます。実の觀賞期は10～翌2月頃で冬の庭を彩ります。

花言葉は魅力・寛容

シリーズ 『国有林 最前線!』

滋賀森林管理署 巨岩・奇岩の湖南アルプス（一丈野・金勝山国有林）

滋賀森林管理署は、滋賀県全域を管轄区域とし、12市町に所在する国有林約18,000haを管理経営しています。

今回ご紹介する一丈野国有林及び金勝山国有林は、大津市南部から栗東市南部に位置し、風化した花崗岩の巨岩・奇岩の岩塊群がアルプスのような独特の景観を作り出しており「湖南アルプス」と呼ばれています。

かつてこの地域は、ヒノキの美林に覆われていましたが、万葉の時代から、度重なる遷都や社寺の建立のためにヒノキが伐り出され、江戸時代には「田上の禿げ」として全国に知られる禿げ山となりました。

その後、明治時代から現在に至るまで樹木の植栽や堰堤の設置などの治山工事が行われました。明治時代にオランダ人技術者ヨハネス・デ・レーケの指導によりつくられたオランダ堰堤は百数十年を経た今も健在で、日本の産業遺産30の選や滋賀県の有形文化財に指定されています。その結果、今では森林が再生し、多くのハイキングコースが整備され、清流と四季折々の美しい景観が訪れる多くの人々を楽しませてくれます。

また、ハイキングコースの沿道には、奈良時代に開かれ、平安時代の仏教文化の一翼を担っていた「金勝寺」や、奈良時代後期～平安時代につくられたといわれる狛坂磨崖仏をはじめとした磨崖仏、狛坂寺跡など多くの見所があります。

滋賀森林管理署では、一丈野国有林及び金勝山国有林1,137haを「近江湖南アルプス自然休養林（一丈野地区）」（レクリエーションの森）に設定し、地元の自治体や観光協会等と協働してハイキングやキャンプ、水遊びなど変化に富んだ森林レクリエーションに利用していただけるよう環境の整備に努めています。

また、当自然休養林は、本年4月に「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されており、今後、英語表記の大型木製看板や道標の設置など、外国人を含む観光客の皆さんが快適に森林を楽しむための環境整備に取り組むこととしています。



オランダ堰堤



天狗岩遠望



狛坂磨崖仏

和歌山森林管理署 紀伊田辺治山事業所 岡井 邦仁

平成23年の台風12号による豪雨が、紀伊半島に未曾有の大災害（紀伊半島大水害）を引き起こしました。田辺市・和歌山県・国は、一体となって災害の復旧に取り組んでおり、特に荒廃状況が複雑で復旧規模が大きい田辺市内7区域については、平成25年度から国が民有林直轄治山事業として着手しました。

全体の事業実施予定期間は、平成25年度から平成34年度までの10年間ですが、菖蒲谷区域は平成25・26年度の2年間の早期復旧を実現しました。当該区域内には世界遺産・熊野古道の人気コース「中辺路」が通っていることから、特に景観に配慮した工種（植生法枠工、木製枠土留工等）を採用し、熊野古道を歩く観光客の方に安らぎを与えています。また、山腹崩壊によって横倒しになってしまったクスノキを山腹工の中心に植え直し、復興のシンボルとしています。

現在の当該区域は、治山事業によって植生が回復してきており、より安定した森林への復旧が期待されます。また、植え直したクスノキは、当初はほとんど葉を付けていなかったものの、現在ではたくさんの緑の葉を付けるまで回復しています。

その他の区域についても、集落等の保全を図る上で早急に崩壊地の復旧が必要であることから、引き続き文化・自然的環境に配慮しながら、集中的に治山事業を実行していきます。



被災状況（菖蒲谷区域）



復旧状況（菖蒲谷区域）